

2023年12月3日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解Ⅱ 25 「しるしと封印」

出エジプト13：5～10、マタイ26：26～30

問65ただ信仰のみが、わたしたちをキリストとそのすべての恵みにあずからせるのだとすれば、そのような信仰はどこから来るのですか。

答 聖霊が、わたしたちの心に聖なる福音の説教を通してそれを起こし、聖礼典の執行を通してそれを確かにしてくださるのです。

信仰はどこから来るのでしょうか。信仰問答では「聖霊がわたしたちの心に聖なる福音の説教を通してそれを起こし」とあります。「起こす」というのは、ラテン語訳では「火を灯す」という表現だとある解説書には書いてありました。それを読んだ時に、二人の弟子たちがエマオに向かう途中でよみがえりのイエスさまに出会った話を思い起こしました。その時のことについて弟子たちはこう話しています。イエスさまが「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」（ルカ24：32）聖書の説明を聞いて、心燃える思いをする。それはまさにそこに聖霊が働いて信仰が起こされた出来事でした。この聖書の説明こそ、毎週の礼拝で福音の説教を聴くことに他なりません。聖書からイエスさまの救い、十字架とよみがえりの御業を聴く。神さまの恵みの御業を聴く。そこに聖霊が働いて、わたしたちの心に信仰を起こすのです。

そしてさらには「聖礼典の執行を通してそれを確かにしてくださる」と言います。「確かにする」というのは「堅くする」ということです。聴いただけではまだ定まっていない。だから礼典によって信仰を堅くする。そのようにして信仰はわたしたちの中に定着するのです。この信仰の定着について問66が教えています。

問66礼典とは何ですか。

答 それは、神によって制定された、目に見える聖なるしるしまた封印であって、神はその執行を通して、福音の約束をよりよくわたしたちに理解させ、封印なさるのです。その約束とは、十字架上で成就されたキリストの唯一の犠牲のゆえに、神が、恵みによって、罪の赦しと永遠の命とをわたしたちに注いでくださる、ということです。

問68新約において、キリストはいくつの礼典を制定なさいましたか。

答 二つです。聖なる洗礼と聖晩餐です。

聖礼典として、洗礼と聖晩餐（聖餐）の二つを挙げています。プロテスタント教会はこの二つを聖礼典として定めています。それは聖書でイエスさまが直接お命じになられたものは洗礼と聖餐の二つだけだからです。洗礼については、マタイによる福音書の最後に弟子たちを伝道に派遣されるところで「父と子と聖霊の名によってバプテスマを授け」（28：19）とあります。また聖餐については、ルカによる福音書の最後の晩餐の記事（22：19）、あるいはIコリント11章のところには「わたしの記念としてこのように行いなさい」（11：24）と教えられます。いわゆる「制定語」と呼ばれるところです。

問66では、この聖礼典について「目に見える聖なるしるしまた封印」と表現します。洗礼も聖餐も目に見える形で行われます。洗礼の時は、受洗者が壇の上で水をかけられて洗礼を授けられるところを見ます。聖餐のパンと杯は目で見て、しかも味わうことができます。時々、聖餐の時にわたしは「よく見てください」と申します。改革者たちはこの聖礼典を「見える神の言葉」とも言いました。見えることではっきりとわかる。理解できるようになるのです。「しる

し」(サイン)があることで分かることがあります。渡り鳥が来れば冬の到来がわかる。梅が咲けば春が近いとわかります。聖礼典もそれによってイエスさまの救いが確かであることがわかるのです。もう一つ「封印」とあります。「封印」は英語では「シール」です。神さまの救いを自分の中に封印する、閉じ込める。外に逃げないようにする。これはわたしたちの信仰において大いに助けになります。

試練にある時には、自分は救われていないのではないかと。神さまは見放してしまわれたのではないかと。そう一人考えて悩むこともあるかもしれません。けれども聖礼典で信仰をもう一度確かめ封印してしまうのです。カルヴァンは聖礼典について「わたしたちの弱さを緩和するため」(ジュネーブ教会信仰問答)と言います。わたしたちは決して強くありません。若い頃は何でもできると考えていたかもしれません。でも老いや病と共に気力も失われ、誰かの力を借りなければ生活ができなくなる。信仰も同じで、自分一人では維持することはできない。一人で聖書を読んで、祈っていれば信仰を維持できるかと言ったらそうではない。だからこそ、神さまはこのように見えるしるしを与えてくださいました。教会の礼拝で、聖書からイエスさまの救いを聴き、聖餐にあずかることで信仰は維持されるのです。

問67ではその御言葉に聴くことと聖礼典にあずかることの目的が示されます。

問67 それでは、御言葉と礼典というこれら二つのことは、わたしたちの救いの唯一の土台である十字架上のイエス・キリストの犠牲へと、わたしたちの信仰を向けるためにあるのですか。

答 そのとおりです。なぜなら、聖霊が福音において教え、聖礼典を通して確証しておられることは、わたしたちのために十字架上でなされたキリストの唯一の犠牲に、わたしたちの救い全体がかかっている、ということだからです。

礼拝で語られる福音の説教、そして聖礼典。この二つのことが目指していることは一つ、イエスさまの十字架の救いです。ここに「わたしたちの救い全体がかかっている」と言います。この救いを目指して教会は福音を語り、洗礼を受け、聖餐を分かち合ってきました。それは二千年前、最初の教会の時代から変わることはありません。あのペンテコステの時、聖霊に満たされて弟子たちが立ち上がりペテロは説教をしました。すると人々は心打たれて「わたしたちはどうしたらよいのですか」と尋ねます。ペテロは言いました。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい」(使徒言行録2:38)そこで人々は洗礼を受け、そして聖餐にあずかりました。

このクリスマスの時期は訪問をしますが、そこでできる限り聖餐にあずかれるようにいたします。イエスさまが命をささげて、わたしたちのために救いを備えてくださいました。だからこそ教会も全力でこの救いを語り、そして聖餐の恵みに一人でも多くの人たちがあずかれるように努めます。ここにわたしたちの救い全体がかかっているのですから。

天の父よ。弱いわたしたちに見える御言葉、聖礼典によって助けてくださる幸いを感謝します。あなたはそうにして救いを確かにする手立てを備えてくださいました。どうぞ教会が福音を純粋に宣べ伝え、聖礼典を正しく行っていくことができますようにお導きください。主の御名によってお祈りいたします。アーメン。